

平成23年度岡山県のハンセン病問題対策事業実施状況

全 体 統 括

●岡山県ハンセン病問題対策協議会

第1回

平成23年8月26日開催

<議題>

- 1 平成23年度事業実施状況
- 2 前回協議事項
- 3 社会復帰支援事業の見直し
- 4 その他

第2回

平成24年3月26日

<議題>

- 1 平成23年度事業実施状況
- 2 社会復帰支援員10年間の活動報告
及び今後の社会復帰支援事業
- 3 平成24年度事業実施計画
- 4 その他

個 別 課 題 の 処 理

1 偏見・差別解消のための啓発事業のきめ細やかな実施

(1)単なるパンフレットの配布等でなく、啓発資材を活用した語り部等による伝承、対話集会の実施等きめ細やかな事業実施を工夫すること

●ハンセン病問題に関する講演会の開催	入所者による語り部講演会	18校	2,269人
1 10月4日	玉野市立日比中学校 全校生徒・教員・保護者 263人	担当：長島愛生園	
2 10月5日	倉敷市立呉妹小学校 5・6年生・教員・保護者 61人	担当：邑久光明園	
3 10月12日	倉敷市立菌小学校 6年生・教員 56人	担当：長島愛生園	
4 10月14日	津山市立北小学校 6年生・教員 61人	担当：長島愛生園	
5 10月26日	県立井原高等学校 1・2年生・教員 249人	担当：邑久光明園	
6 10月27日	倉敷市立第五福田小学校 6年生・教員・保護者 52人	担当：長島愛生園	
7 10月27日	倉敷市立連島南中学校 2年生・教員・保護者 134人	担当：長島愛生園	
8 11月1日	笠岡市立大島中学校 1・2年生・教員・保護者 77人	担当：長島愛生園	
9 11月17日	和気町立佐伯中学校 1年生・教員 32人	担当：長島愛生園	
10 11月25日	勝央町立勝央中学校 2年生・教員・保護者 132人	担当：邑久光明園	
11 11月25日	津山市立鶴山中学校 全校生徒・教員・保護者 335人	担当：長島愛生園	
12 12月1日	備前市立伊里中学校 1・2年生・教員 106人	担当：長島愛生園	
13 12月5日	高梁市立高梁北中学校 全校生徒・教員 76人	担当：長島愛生園	
14 12月7日	倉敷市立玉島北中学校 1年生・教員 230人	担当：長島愛生園	
15 12月9日	岡山市立岡南小学校 5年生・教員・保護者 108人	担当：邑久光明園	
16 2月3日	岡山市立豊小学校 5年生・教員 55人	担当：長島愛生園	
17 2月10日	高梁市立高梁中学校 2年生・教員・保護者 148人	担当：邑久光明園	
18 2月14日	吉備中央町立竹荘中学校 1・2年生・教員・保護者 94人	担当：長島愛生園	

参加した生徒等の感想(主なもの)

- ・講演会を聞いて、ハンセン病のことを知らない人に教えてあげたいと思いました。(小6)
- ・人の気持ちをまず考え、口に出したり、行動しようと深く思いました。(中1)
- ・僕も負けないようにいろいろなことに立ち向かえたらいいと思った。(中2)
- ・ハンセン病を他人事だと思わず、私たちが後生に伝えていくべきだと思いました。(高1)
- ・ハンセン病について知らないことがとても多いことに改めて驚きました。岡山県民として、あまりにも無関心でいたことをとてもはずかしく思いました。(保護者)

●地域交流事業

県民が実施する地域交流事業への補助 随時 申請件数：13件（906人）

実施した地域交流事業(主なもの)

小学校6校、中学校4校、高等学校1校 講演会・訪問交流

●語り部DVDの活用

随時 図書館等での視聴・貸出、語り部講演会等事前学習用に貸出

(2)ハンセン病に関する正しい情報提供を行うこと

●ホームページでの啓発 「みんなで描くひとつの道」 www.hansen-okayama.jp

通年 公開開始：H14.6.24

- ・アクセス数、8,307件(H23.4.1～H24.3.15)
- ・「長島は語る」をホームページへ公開

●リーフレット、小冊子の配布

随時 保健所・市町村等へ配布、長島愛生園歴史館・邑久光明園等での活用

学習用小冊子は、平成21年度に64,000部(残り約11,000部)、一般用リーフレットは、平成22年度に30,000部(残り約22,000部)作成。入所者による語り部講演会、問い合わせのあった県内外の小学校・中学校や団体等へ配付(3月現在、約7,000部を配布)

●県政広報資料の配信

市町村・農協等の広報誌への転載資料、有線放送の資料として、広報担当課から「県政広報資料」を市町村等に、メールで配信

6月22日「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」

●啓発パネル等の貸出

随時 希望に応じて貸出

- ・平成23年度憲法週間「市民のつどい」（主催：岡山市、岡山市教育委員会）
- ・県立図書館1階ティーンズコーナーで掲示（5/28～7/29）
- ・語り部講演会等の事前学習用

○保健福祉部職員研修（保健福祉課）

保健・福祉行政に携わる職員が療養所を訪問して、その歴史と現状を学ぶとともに、入所者との交流を通じて人権意識を高めることにより、今後の行政施策に役立てる

7月21日 長島愛生園 25名参加

8月25日 邑久光明園 21名参加

参加した職員の感想(主なもの)

- ・行政に携わる者として、差別的な扱いにならないかを常に意識しながら業務に取り組む必要があることを改めて認識させられた。
- ・このような過ちを二度と繰り返してはならないと思う。

○人権啓発研修（人権施策推進課）

県職員が療養所を訪問し、その歴史と現状を学ぶとともに、人権についての正しい理解と認識を深め、人権行政の担い手としての資質の向上に役立てる。

7月28日 長島愛生園 40名参加

参加した職員の感想(主なもの)

- ・実際に療養所を訪問して、自分の目で見、生の声を聞いたことで、ハンセン病について正しく理解できた。
- ・ハンセン病についての正しい情報を、社会の人に伝えていきたい。

○パンフレット等の設置、配布（人権施策推進課）

随時 公民館・図書館等の公共施設に設置した人権情報コーナー(185か所)での情報提供

(3) 道徳副読本問題が提起した偏見・差別の無意識な助長に配慮し、学校教育の中の人権教育において取り上げること

○交流研修会の実施等（教育庁）

国立療養所の園長による講義、居室訪問、入所者の方による講話等を通して、ハンセン病についての正しい理解を図る研修を実施した。

人権教育交流体験研修講座（10/7、10/14、10/21） 邑久光明園 参加者65人

＜参加者の感想＞

- ・入所者の方の話に強く共感しながら、差別や偏見について深く考えることができた。
- ・ハンセン病に対する正しい認識と入所者の方の思いを子どもたちに伝えていくことが教育の責務であると感じた。
- ・受講者のために、率直にお話くださった入所者の方に感謝の気持ちで一杯です。
- ・今後もこうした交流を継続していただけるとありがたい。

○各種研修会における、「第3次岡山県人権政策推進指針」等の配付・説明（教育庁）
市町村教育長・人権教育担当者、各学校の校長・人権教育担当者、初任者等を対象にした研修会で、資料を配付し、説明を行った。

＜配付資料・説明の内容＞

- ・「第3次岡山県人権政策推進指針」について
- ・「ハンセン病に関する県民意識調査」結果概要について
- ・「岡山県ハンセン病問題対策協議会提言」について
- ・ハンセン病学習の充実に向けて（県の事業、啓発HP、小冊子「ハンセン病のこと正しく知っていますか」等の紹介）
- ・「ハンセン病問題基本法」の施行や長島愛生園・邑久光明園の将来構想の公表など、最近の動きについて

○人権教育指導資料の活用の促進等（教育庁）

授業等で活用できる指導資料（「人権教育実践事例集・環境づくり編」「人権学習ワークシート集（上）」「ワークショップ（下）」等）や視聴覚教材等について各種研修会で紹介し、活用を促した。

＜平成23年度整備作品＞

- ・作品名：家族からひきはなされて ～みんなで考えようハンセン病問題～
- ・内容等：ハンセン病療養所には多くの子どもたちがいたが、強制隔離収容によって、病気が治ってもふるさとに帰れず年をとってしまった。この事実を歴史と証言から学ぶ。（DVD19分 企画・制作 福祉運動・みどりの風

（注）「人権教育実践事例集・環境づくり編」「人権学習ワークシート集（上）」
「家族からひきはなされて」は、人権教育課HPでも紹介している。

(4) 高齢者等への理解を深めるために社会教育活動として生涯学習(出前講座)にも取り組むなど人権意識涵養をさらに推進すること

- DVD (改訂版) の販売
通年 制作委託会社に販売委託
「ハンセン病を正しく理解するために」 3,000円
ハンセン病全般がわかる啓発DVD 29分
語り部証言集12名: 157分
「今、わたしたちができること」 1,000円
小・中・高校生向けハンセン病啓発DVD 14分

販売状況 H23年度(3月現在)
・ハンセン病を正しく理解するために 74枚
・今、わたしたちができること 31枚
※今年度から国立ハンセン病資料館でも設置販売

○交流活動を通じた指導者研修の実施(人権施策推進課・教育庁)

啓発・教育活動を一層推進するための深い知識と実践力を持った指導者を養成する講座において、邑久光明園での現地研修及び交流学习を行った。

10月4日実施 24名参加

参加者の感想(主なもの)

- ・初めはどのように接してよいのかとまどいでしたが、うちとけて話をすることができました。
- ・友達や家族との別れは、どんなにつらかったらうと胸が痛みました。
- ・入所者の方の言葉はとても重く、心に残りました。
- ・改めて、ハンセン病問題について広く啓発することの大切さを感じました。

(5) 若い世代に対する啓発は、ハンセン病の正しい知識についてストレートに伝えていくこと

各啓発活動の中で配慮

(6) 主要公立図書館にハンセン病関連文献コーナーを設置すること

- 県立図書館への設置(教育庁生涯学習課)
通年 ハンセン病関連文献コーナーを設置

県内市町村立図書館にも、ハンセン病関連の蔵書あり

- 啓発パネル・関連図書の展示(教育庁生涯学習課)
5月28日～7月29日 県立図書館1階ティーンズコーナーにて
「学ぼうハンセン病」展示

- ・展示パネル貸出についての問い合わせ、『県立図書館所蔵ハンセン病関係資料目録』の配布用の有無についての問い合わせなどがあつた。
- ・毎日新聞(6月21日朝刊)、産経新聞(7月26日朝刊)に記事掲載。

2 福祉増進施策の実施

(1) 入所者を訪問し、県に対する要望などの意向調査を行うこと

● 社会復帰支援員等による意向調査

通年 療養所出張相談による把握 両園 毎月2回

特になし

● 入所者激励費の贈呈（ハンセン病療養所入所者に対するもののみ）

12月19日 保健福祉部次長が長島愛生園及び邑久光明園を訪問
大島青松園は、業務の都合上、訪問できなかったため、郵送

園長への挨拶の後、自治会役員及び岡山県人会員と懇談。
語り部活動や訪問交流に生きがいを感じつつも、入所者の高齢化など
で対応に限界が感じられるとの話があった。
療養所の将来構想などの話をした。

(2) 社会復帰に当たり入所者の参考とするため、県民に対し、社会復帰受け入れ等に関する意識調査を行い、その結果を両園入所者に提示すること

● ハンセン病に関する県民意識調査結果の周知

通年 ホームページへの掲載

(3) 社会復帰支援員を設置し、社会復帰希望者からの相談に対応するとともに、当面、住宅、医療等の確保が求められている状況を受けて、継続的に入所者及び親族や関係市町村等との連絡調整等の支援を行うこと

● 社会復帰支援員による支援活動

通年 医療ソーシャルワーカー等 30名
・療養所への出張相談 両園 毎月2回
・退所者訪問 随時、定期 月1回

相談実績、状況等（詳細は、社会復帰支援員から説明）

長島愛生園 活動日24日 60件

邑久光明園 活動日21日 58件 ※H23.4月～H24.2月集計

入所者から社会復帰に関する相談は、ほとんどない状況である。

(4)住宅の確保について、関係市町村とも十分連携しながら公営住宅の優先入居や民間住宅の入居斡旋等の支援を行うこと

○県営住宅の優先入居

随時 土木部住宅課において対応

実績なし

●住宅費の一部補助

随時 生活保護基準により支給 (例)岡山市37,000円/月
「岡山県ハンセン病療養所等退所者助成金支給要領」

(5)医療の確保について、退所者に対する在宅医療の確保や療養所の協力医師、協力医療機関の確保、医療関係者の研修を目的として、療養所、入所者自治会と関係自治体、医療関係団体等との協議の場を設ける等の支援を行うこと

●個別案件ごとに対応

随時 関係自治体、医師会との協議

随時 サポートプログラム作成、研修

社会復帰希望者の要望を踏まえ、関係自治体や医療機関等と連絡調整

社会復帰者については、社会復帰支援員が、随時、対応している。

●医療費、介護保険利用料の補助

随時 自己負担上限(市民税非課税) ・医療費 35,400円/月
・介護費 24,600円/月

「岡山県ハンセン病療養所等退所者助成金支給要領」

(6) 本人の希望に応じ、里帰り希望者には個別対応を行うこと

●岡山県出身者への訪問

- 6月29日 長島愛生園、邑久光明園
- 7月19日 菊池恵楓園
- 7月25日 大島青松園
- 7月26日 多磨全生園
- 8月 3日 神山復生病院

訪問時に、見舞金と里帰り助成金を贈呈し、近況や県への要望をお伺いし、里帰りされる場合は相談に応じる旨を伝えて、歓談した。

入所者訪問時の状況

- ・長島愛生園 18名 お会いした方々はお元気な様子であった。
- ・邑久光明園 3名 お会いした方はお元気な様子であった。代表者の方は、体調を崩されているとのこと。
- ・菊池恵楓園 2名 お一人は、食後の低血糖症で横になられており、お顔を拝見しただけで、直接お話しはできなかった。もうお一人は友人の手術に付き添われており、お会いすることはできなかった。
- ・大島青松園 1名 目が不自由になられラジオを聞く生活のようだが、活発に話しいただいた。
- ・多磨全生園 2名 お二人ともお元気そうであった。お一人は、失った味覚が戻ってきたことを教えてくださった。お一人は、普段、カラオケクラブで活動されているとのこと。
- ・神山復生病院 1名 足の炎症のため松葉杖であったが、他は大変お元気。これまでの療養所生活や思いなど、終始、積極的にお話しいただいた。

●意向を伺い、個別案件ごとに対応

里帰り、墓参りへの支援等について個別案件ごとに対応

例年、邑久光明園のみ里帰り(日帰り旅行)を実施しているが、今年度は参加者の体調などから実施は見送られた。

3 両園保有史料の保全策に関する国への要望の実施

●史料の保全に関する要望

平成23年度重点要望

内容:ハンセン病療養所が保有する歴史的建造物や過去の貴重な文献等の資料を保全し、普及啓発に活用すること。

4 今後体制を整えた上で、さらに行う取り組み

(1) ハンセン病療養所入所者に対する聞き取り調査の実施

自治会及び園当局の協力を得て、聞き取り調査を実施し、了解が得られる方の聞き取り調査結果については、啓発資料として活用すること

●小冊子への体験談の掲載

通年 入所者の体験談を掲載した小冊子を、語り部講演会、学校等での人権学習に活用

掲載して活用中

H23配付部数 約 7,000 部(3月現在)

配付先(主なもの)

市町村(教育委員会、人権関係部局)、問い合わせのあった団体
入所者による語り部講演会実施校 など

(2) 関連資料・史料の収集・蓄積

広く県民に対して関連資料の提供を呼びかけるとともに、歴史研究者の協力を得て、岡山県及び市町村保存資料等の調査・研究を進め、偏見・差別解消に向けた取組みの一環として、これらの調査・研究を通じて明らかにされる事実を題材として、県民に対する啓発を行うこと

●資料集刊行、収集した史料の保存・公開

通年 平成20年度までに刊行した資料集制作の際等に収集した史料を、平成21年度末に県立記録資料館へ引き継ぎ済。

県立記録資料会において、史料の公開に向けて、引き続き準備中。
なお、史料開示の相談があった場合は、個別案件ごとに対応している。

国立ハンセン病資料館、受入

(注1)平成14年3月20日「岡山県のハンセン病対策を振り返り正しい理解を進める委員会」から提出された意見書における提言

(注2)●健康推進課の実施事業